

2024

10-11月

はしかけニューズレター

2024 年度 第4号 通巻 179 号

2024 年(令和6年)10月1日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 西川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊
(9) 里山の会 (10) 植物観察の会 (11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ
(13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん (16) ほねほねくらぶ
(17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人 (20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流 (22) 水と暮らし研究会
(23) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(10月～12月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 ... 365人

グループ数 23グループ

(2024年 9月30日現在)

1. 事務局からのお知らせ

今年は残暑が厳しく、暑い日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。琵琶湖博物館周辺の田んぼでは稲刈が終盤を迎え、秋の訪れを少しずつ感じます。朝夕は気持ちの良い秋風を感じ、金木犀の香りを楽しむなど、秋ならではの散歩時間を楽しむことができますので、お時間がある方はぜひ、ご近所にお散歩に出かけて頂けると幸いです。

以下は事務局からのお知らせです。

■びわ博フェス 2024 について

2024 年度は、11 月 16 日(土)、17 日(日)関西文化の日に、びわ博フェス 2024「博物館の新たな可能性 一つながることのできること」を開催いたします。詳細は、web サイトでお知らせする予定です。皆様のご来館をお待ちしております。

■びわ博フェス 2024 でのポスター発表やワークショップ等について

グループで活動の皆様には、ポスター発表やワークショップ等のご準備、誠にありがとうございます。代表者の方へは、びわ博フェスの準備に関わる情報を随時、メールおよび web サイト上の掲載にてお知らせします。何卒ご協力のほど、よろしくお願い致します。

■第 32 回企画展示「湖底探検Ⅱ ー水中の草原を追うー」について

身近なようで、実は野生の姿があまり知られていない水草について、豊富な水中映像や観測成果をもとに琵琶湖の中での生態や人との関わりについて紹介します。期間は 11 月 24 日(日) までです。企画展示の観覧には、別途観覧料金が必要です。ぜひ、ご観覧ください。

■はしかけ登録講座 9 月について

はしかけ登録講座を 9 月にオンラインと対面式の両方で実施しました。新規会員の方は、10～11 月より活動に参加される予定です。

■はしかけグループ解散のお知らせ

以下の2つのグループについて、グループ解散の承認を致しましたので、お知らせします。

- ・令和 6 年 8 月 7 日滋琵琶博第 431 号 はしかけグループ解散の承認について(タンポポ調査はしかけ)
- ・令和 6 年 9 月 16 日滋琵琶博第 473 号 はしかけグループ解散の承認について(ザ・ディスカバはしかけ)

(西川 真里奈)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 51 名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■7月21日(日) 第183回定例調査

場所: 天神川

参加者: 17名

当初は大戸川を調査する予定でしたが、気温 35℃という危険な暑さだったため、大戸川の支流である天神川で午前中のみ調査となりました。天神川にある堰堤の上流と下流の2班に分かれて調査し、合計8種の魚が確認できました。ツルヨシやガマが生い茂っており、魚影が見えても採るのが難しい環境でしたが、カワムツの稚魚が多数採れ、成魚は投網で多く採れました。

変わったものではサンショウウオの幼生が採れ、皆の注目の的でした。かなり暑い中の調査でしたが、山の近くの川ということもあり水温は高くなく、水の中で涼めたのがせめてもの救いでした。皆さん水分補給をしっかりとされていたので体調不良等もなく、楽しい調査となりました。(文責: 中島 財)

■8月3日(土) 夜間観察調査

場所: 和邇川、琵琶湖

参加者: 12名

暑い、を超えて「熱い」日中を避けて、夜間の調査を行いました。12名が集合し、ヘッドランプ等を装備して和邇川へ。昼間と違い、多数のスジエビが流心に出てきており、延々とスジエビが採れる中、ヨシノボリ類、ウキゴリなどが採れはじめ、ちょっと手こずったもののアユも採れました。大きな白い魚影がライトの明かりの中に発見され、数人で追い込んで捕獲すると、何とニシキゴイ。悪質な愛好家に捨てられたものでしょう。立て続けにニゴイも入りました。

琵琶湖岸へ移動し、岸からの採集を試みます。多数のスジエビに交じってオオクチバス、フナ類稚魚、ウキゴリが採集されました。初の試みでしたが、事故等もなく楽しく終えることができました。(文責: 中尾博行)

■9月15日(日) 第184回定例調査

場所: 草津川、葉山川等

参加者: 22名

雨予報の中、第184回定例調査が行われました。草津川下流、上流、葉山川等の3班に分かれて調査開始。私が参加した下流班は、ヨシノボリ、ウキゴリ、オイカワ、タモロコ、ツチフキ、ニゴイ等々と、数は少なめながらも比較的多くの種が採集されました。上流班はカワムツとドンコばかりで、他はヨシノボリ類少々とモツゴが1尾だけ、葉山川班はオイカワ、ウキゴリ、ドジョウ等の他、外来種のカダヤシが採れたそうです。

いつ雨が降るか?と心配されましたが、結局降らず。ただただ暑いだけでした。最近このような予報が多い気がします。高温が続くと、産卵期を迎えるアユやビワマスへの影響が心配です。(文責: 中尾博行)



▲採れた魚たち



▲ここ数年よく見るようになったツチフキ

【今後の予定】

10/20(日) 定例調査(日野川)

10/27(日) 水資源機構観察会への協力(草津市)

11/16(土) びわ博フェス出展

11/17(日) 定例調査(高島市堤脚水路)/ びわ博フェス2日目

行事が多い秋となりますが、ぜひご参加下さい。詳細は会員宛メールでお知らせします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員:橋本 道範

【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

別件では、江戸時代から続く地元地区の愛宕講(講員 12 名)が 7 月 20 日に開催され、愛宕曼荼羅の掛軸のもと古式による方法で今年の代参者 2 名が選ばれた。火伏の神である愛宕神社のお札は、伊勢神宮の風日祈宮や多賀大社のお札とともに、地元地区の東西の入り口に建てられる。これは、“三社風参り”と呼ばれていて、地区から選ばれた人が愛宕神社(火災)と伊勢神宮(台風)、多賀大社(厄除け・延命)にお参りし、地区の一年間の無事を祈るという慣習である。

また、甲賀准四国 86 番札所の今郷浄土寺では、7 月 28 日に大日会法要が執り行われた。コロナ禍で中止されていた 12m の竹を使った流しそうめんも復活し、46 名が舌鼓を打った。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員: 桒永 一宏

【活動報告】

■ 2024年 8月 25日(日) 琵琶湖博物館 参加者 2名
オープンラボにてスケッチ、および湖岸等を吟行しました。

【活動予定】

- 2024年 9月 22日(日) 水生植物園(草津市)
散策やスケッチ、および吟行を行います。
活動時間 10時 30 分～(16時)
※10時30分に券売機付近集合

- 2024年 10月 27日(日) 田上(大津市)
田上の散策やスケッチをします。
活動時間 10時 30 分～(16時)
集合場所については後日、参加者にお知らせします。
※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

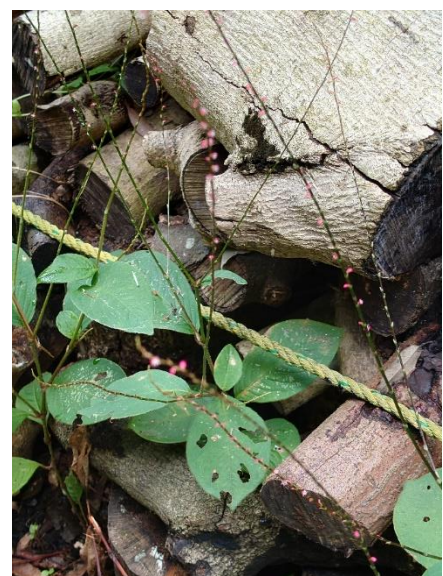
○博物館 de 俳句

8月25日の活動日にも烏瓜の花を見かけました。
博物館のある草津市周辺では稲刈りがはじまりましたが、残暑が厳しく9月中旬になっても空には夏の入道雲が居座っています。
秋のお彼岸を迎えますとこの辺りでは彼岸花とも呼ばれている曼珠沙華が畦や空き地などそこそこで見られるのですが今年はまだ見当たりません。
それでも朝夕は虫の音が聞かれるようになりました。
※琵琶湖周辺で見つけた今月の季語は下記の通りです。
水澄む、秋の湖、秋の浜、稲刈、新藁、蘆の花、茨の実、蜻蛉、精霊飛蝗(ショウリョウバッタ)、秋の蝶、草の花、など。
※ちなみに博物館でおなじみの鯰や山椒魚、鮎は夏の季語。
鰻(カジカ)や鯊(ハゼ)は秋の季語になります。

(9月16日 金山美佐子 記)



烏瓜の花



生活実験工房の水引の花



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員:橋本 道範

【活動報告】

■7月27日(土) 参加者:4名

各自の作業。カラムシの芋績みや真綿の糸紡ぎなどを行いました。また、びわ博フェスのワークショップの相談。少し前にクルミの樹皮をはいでみたので、それを使って何かすることにしました。

■9月7日(土) 参加者:5名

びわ博フェスのワークショップを「樹皮を編んでストラップを作ろう」にしたので、何ができるか相談。とりあえず葉っぱを使ってボールを作ってみました。苦戦。次回まで各自試作することにしました。

【活動予定】

■織姫の会

9月25日(水)、10月9日(水)、26日(土)、11月9日(土)、27日(水)、12月7日(土)

11月16日(土)びわ博フェス

(文責:辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2024年7月の活動

○勉強会 偏光顕微鏡による薄片観察

日時: 7月21日(水) 13:30~16:00 参加者 13名

場所: 琵琶湖博物館実習室 2

- ・偏光顕微鏡の特徴や操作について学び、田上花崗岩の薄片を用いて、主な造岩鉱物の黒雲母・長石・石英の特徴を観察した。三上さんのご指導で、初心者でも安心して操作できるよう、顕微鏡を収納ケースから取り出すところから、使い方や特徴などを丁寧に教えて頂いた。
- ・観察実習では、薄片をステージに置いて、ピント調節、単ニコル、複ニコルでの見え方の違い、ステージを回して多色性や干渉色の違いを観察した。
- ・その他 グループメールについての連絡方法、及び今後の活動や、びわ博フェス参加に向けての準備など協議した。

■今後の活動予定

9月24日(火) 10:00~ 湖南省野洲川新生橋付近 びわ博フェスなどで使用の石拾い

10月14日(月) 野外調査 比良方面 詳細未定

以上です。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 32名】

グループ担当職員:加藤 秀雄、金尾 滋史

【活動報告】

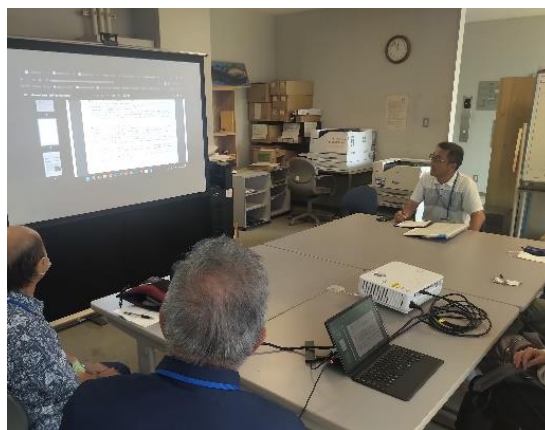
■8月17日(土)10:00~12:00 2024年度後半の活動に関する打ち合わせ 参加者7名 担当職員1名

お盆明け、立秋を過ぎ処暑が間近に控えてもなお酷暑が告げられる毎日ですが、建物内での活動は有難いものです。今回は「温故写新」のこれまでの活動で蓄積されてきた資料を今後どのように活かせるかを話し合ってみました。絶対的な方法、解決策は見出されることはなく、今後の活動においてもその整理記録保存についても併せて話し合いを重ねる必要を感じました。先ず

は昨年まで携わって来て、一応の整理を終え今後の方向性が見えた「大橋宇三郎コレクション」の活用方法を具体化したいこともありました。

■9月8日(日)10:00~12:00 琵琶湖博物館所蔵温故写新関係資料の確認 参加者6名 担当職員2名

今回も屋内での活動。冒頭で金尾学芸員からの挨拶があり、前回の活動で話題に上がった「温故写新」のこれまでの資料について、保管されている資料の確認をしました。博物館内の映像収蔵庫内には温故写新の棚が設けられており、グループ20年間の画像が保管されています。もっと数多くの資料が在ると思いましたが以外に少なく、デジタル化主流の昨今でデーターとしてOA機器内に収蔵されているのでしょうか。いずれにしてもそれらが人の目に触れるような工夫も必要かと思いました。また下半期の活動予定の確認を改めて行いました。



【活動予定】

- 10月 びわ博フェス展示写真検討会
- 11月16、17日 びわ博フェス
- 12月 おでかけ撮影会 in 堅田
- 1月 琵琶博画像データベース説明会
- 2月 撮影技術、写真加工技術に関する勉強会
- 3月 総会

※活動に参加される方は、事前にグループ担当学芸員までご連絡ください。

※温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行っています。ご希望の方は温故写新担当学芸員(金尾・加藤)までご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動予定】

秋以降の活動再開を予定しています。

地元の人たちが運営している資料館の訪問や、近江八幡市内での聞き取りと聞き書きの活動を予定しています。地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保 実香)



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■①6月16日実施の愛知川河床での活動の振り返り

②「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採取された植物化石のクリーニング

日時:7月21日(日) 14:00~17:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加人数:7名

活動内容:6月16日に実施した愛知川河床での野外活動の振り返りを行いました。それぞれが採取した化石を持ち寄り、メンバーと一緒に確認・報告し、採取した化石が何の化石か皆で検討しました。採取時の化石の産出状況を確認し、気がついたことや疑問に思ったことなどについて意見を出し合うなど、双方向での報告会となりました。今後の調査への課題を出し合い、追加調査を行う方向となりました。

後半は「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採取された植物化石のクリーニングも行いました。

■植物化石の勉強会

日時:8月25日(日) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加人数:7名

活動内容: 勉強会が始まる前に、湖国もぐらの会のメンバーの方に珪化木の標本を見せてもらいました。見た目よりもずっしりと重く、愛知川の河床で観察した化石樹との質感の違いを、より実感として感じることができました。

その後、メンバーの一人が講師となり、植物化石の勉強会を行いました。フィールドにこまめに通い、しっかりと露頭を観察するといった化石の見つけ方や、見つけた化石は、まず周りを外側に向けて掘り、化石の周りを大きく掘った上で化石の下側に向けて掘り、最後に思い切って母岩を起こせば化石を壊さずに採取することができるなど、フィールド調査で培った経験を元にした解説がありました。

また、メタセコイアの球果化石は、くちびるのような形が十字対生しているなど、植物化石の特徴の見分け方などについても、わかりやすい解説がありました。豊富な実体験に基づいたとても有意義な内容で、メンバー達は何度も大きく頷き納得しながら、時には笑顔で熱心に聞いていました。持参された実物化石を実際に手に取って観察することもできました。

他のメンバーも、三重県内の古琵琶湖層で採取した植物化石を持参され、講義の後、その植物化石も皆で観察させてもらって、何の植物の化石なのか一緒に考えました。

7月21日の活動に参加できなかったメンバーが持参された、6月16日の愛知川での活動で採取した植物化石も実体顕微鏡で観察しました。

皆、熱心に活動し、思わず活動終了の時刻を忘れてしまいそうになるほど、植物化石の魅力を再認識できた楽しい活動となりました。



〔勉強会の様子〕

【活動予定】

■「びわ博フェス 2024」の準備

日時:9月10日(火) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館 地学研究室

■屋外調査・化石のクリーニングなど

日程:10月5日(雨天時は10月13日に延期)

場所:未定

【お知らせ】

■現在、古琵琶湖発掘調査隊では、都合により会員の新規加入の募集を停止しております。



(9) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:奥田 岬

直近の活動はありませんでした。

【今後の活動予定】

9月28日(土) ハンモック虫干し、道具整備

10月12日(土) 秋の里山体験教室下見

10月20日(日) 秋の里山体験教室本番



(10) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

今年も昨年に続いての酷暑。7月の梅雨明け前から8月は台風以外に恵みの雨はほとんどなく、気温36℃越えの日が続いた。サクラのなかま達は耐えきれず葉をたくさん落としてしまったが、イネ科の雑草たちは元気で不思議だ。9月に入っても35℃越えの日が続き、もちろんヒトの私たちは、バテバテ…。

【活動報告】

8月 熱中症予防のため例年お休み

9月 15日(日) 「水草観察⑤」 長浜市豊公園付近 10:00~12:00 参加者 2名

私の住む三重県北部は朝から時雨れていたが、滋賀県側は曇り。気温30℃、風弱。この時期に花を咲かせる水草が多いため、いつもこの時期に芦谷先生にお願いして観察会をしている。

快晴よりも曇りの方が水中が見やすい、とのこと。暑さも和らぎ、曇りで良かった！

水に入ると、ヒロハノエビモの花、オオササエビモの花が、水面からつくしのような雌花を立ち上げている。目が慣れてくると、こっちにもあっちにも…、あんなに向こうまで咲いている！と2人で言いながら探索。

この日観察できたものは、ヒロハノエビモ(花)、オオササエビモ(花)、ササバモ(花)、イトモのなかま、トリゲモ(株が大きい、オオトリゲモとは雄花の葯室の数で区別するとのこと)、マツモ(フサモに比べて硬い)、クロモ(花、この花は何度見ても糸状でキラキラしていて見飽きない)、ホザキノフサモ(鮮やかな緑できれい)、オオカナダモ(花)、ヒシ(花、実)、イバラモ(雌株、雄株)、コウガイモ、ネジレモ(雌株の花・実、雄株)と、アオウキクサ、アイオオアカウキクサ、藻類2種。藻類の種名は分からないので状態を観察。1つ目は、水面で他の水草に乗っかるように広がっていて触ると濡らした綿のよう、2つ目は、湖底に生えているかのように揺れていて、ひとつひとつは細い緑の絹糸のようだった。

ネジレモの雌花は、水底から水面まで花茎を伸ばして水面に花が開くようになっていて、そこで流れてくる雄花の花粉を待っている。よく見るとこれも、こっちにもあっちにもあり、水面に浮かんだ花の先端部分が波に揺られて同じ方向に動くのをしばらく眺めていた。帰宅後、花茎をよく見ると、結実後のくるくる部分は、つる植物の巻きひげと同じようにくるくる巻きを途中で反対にしている。ネジレモの雄株は私たちでは分からず、芦谷先生採取のものをを見せてもらい、雄花が入っている苞を観察できた。この雄花の花茎も水面まで伸びたら受粉しやすいだろうと思ったら、なんと少し花茎を伸ばすだけで水中で先端部分が開いて雄花が出てくる、と聞いて驚いた。

この日観察できた水草は13種。普段見られないものが見られ、2人とも芦谷先生にほぼマンツーマンで教えてもらい、満足すぎる時間だった。近くにカイツブリがいて何でも潜っていたり、湖の中を歩いているとぽっこぽっこ水が湧いているところがあったり、真横で魚が跳ねたり、と楽しくて仕方ない時間だった。魚たちには、威嚇されていたのかもしれないが…。



【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 10月 6日(日) 室内で観察
- 11月以降は未定、 ※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(11) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第78回総会が、9月23日(月・祝)10時から、琵琶湖博物館研究交流室で行われます。ニューズレター原稿の〆切以降であるため、今回は報告できません。忘れなければ次号で報告します。

会員の富さんが5年間かけてゆっくり進めてきた、古琵琶湖層群蒲生層の化石珪藻の論文を、8月末に投稿しました。まもなく最初の審査結果が返ってくると思います。他にも野田沼・曽根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

【活動予定】

日本珪藻学会第43回研究集会が、琵琶湖博物館で10月19日(土)、20日(日)に行われます。集会会長は根来健さん(琵琶湖博物館特別研究員/たんさいぼうの会)で、たんさいぼうの会会員も多くがスタッフとして会の運営に関わることになりました。学生会員は参加無料です。日本珪藻学会の学生会費は現在3,000円/年ですが、来年から1,000円/年に引き下げられることが決定しています。学生・生徒の皆さんで、珪藻の研究をしているか、これからしようと思っている人は、是非とも日本珪藻学会にご入会の上、研究集会にご参加ください。このニューズレターが発行される頃には発表申し込みは終了していますが、参加のみの申し込みは10月7日まで受け付けています。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(12) たんぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

この夏は、連日の熱中症警戒アラート、巨大地震注意の呼びかけ、長期間居座る台風などにより、野外活動を躊躇する状況が続きました。例年、私たちのグループでは、春に実施した調査の際に記録したデータシートの整理、採集した標本の同定、調査した水田の灌漑様式の確認などを夏休みの間に行っていますが、本年度はこれらの作業を前倒しで進めていたため、上述のような困難な状況の中でも、何とか8月中旬に調査結果をまとめることができました。

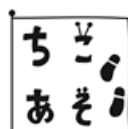
【活動報告】

2024年8月11日午前10時から、琵琶湖博物館実習室1で2024年度の結果報告会を行いました。報告会では、2024年度の調査結果をまとめた表と調査地域の地図が配布され、5月中旬から6月中旬にかけて湖北、湖東、東近江、近江南部で調査した390筆のうち、51%にあたる200筆で大型鰻脚類の生息が確認されたことが報告されました。3次地域メッシュ・コード単位で整理すると、本年度は新たに45メッシュで調査を行い、42メッシュでエビ類の生息が確認されたこと、また、これまで「いない」とされていた1メッシュで新たにホウネンエビの生息が確認されたほか、1メッシュで新たにヒメカイエビ類の生息が確認された旨説明がありました。とくに、旧安土町南部の29筆でカブトエビの分布調査を行い、4筆の水田で2種のカブトエビの双方が4筆の水田でアジアカブトエビのみが確認されたこと、愛知川より東側にある愛荘町の2筆の水田で、はじめてトゲカイエビの生息が確認されたことも報告されました。

【活動予定】

11月のびわ博フェスでは、本年度の調査結果を反映して新たに作成したポスターを展示する予定です。

(山川 栄樹)



(13) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:大久保 実香

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

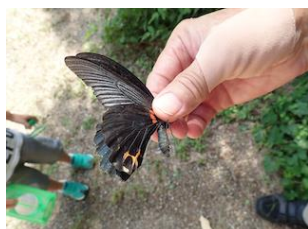
◆8月はお休みでした。

◆9月の活動 9/18(水) 7組(幼児9名、大人7名)

9月になったのに、とても暑い朝。子どもはすぐにガチャコンポンプで水遊びを始めました。大きなタライを前に最初はピチャピチャと可愛らしく遊んでいましたが、あっという間にタライの中にジャボン！声をあげて水と戯れます。

ミズカガミの田んぼは刈り取られましたが、餅米の田んぼは稲穂が垂れ下がっています。畔や畑を歩くと、ショウリョウバッタやイトトンボ、カナヘビが出てきます。網をもって生き物たちを捕まえにいく親子、夏前に植えた野菜の生長を確認に行く親子、水遊びに浸る親子、それぞれ好きに過ごしました。

お昼に向けてドンドン熱くなる日差し。涼しい生活実験工房も併用して、熱中症を防ぎながらの活動でした。



もうヒガンバナが咲いています ナガサキアゲハがいました ガチャコンポンプで水遊び イチジクが大きくなっていました

今回のちこあその報告は、代表の池田勝が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
10月	10月16日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み)
11月	11月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ11月	コロナ禍の実施についてはその都度判断します。 ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。
11月	11月16日(土)	びわ博フェスに 登場	いつものちこあそとはちょっと違う自然あそび。 内容は当日のお楽しみに！

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ)19名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 8月18日(日) 参加者:7名、学芸員:2名、見学4名

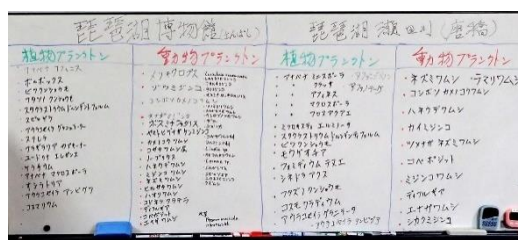
烏丸半島の船着き場や瀬田川、博物館観察池などのプランクトンを観察しました。先月琵琶湖で大発生していたゾウミジンコモドキは今回の活動では全く見かけませんでした。



観察会の様子



観察池のプランクトン



8月18日に観察したプランクトン

■ 9月15日(日) 参加者:12名、学芸員:1名、見学5名

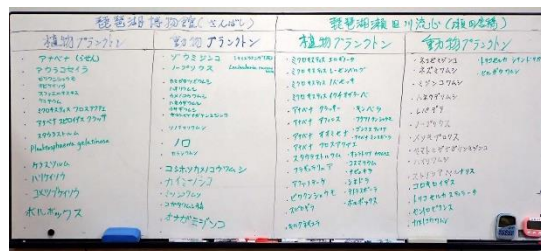
烏丸半島の船着き場や瀬田川などのプランクトンを観察しました。午前中はNHKの取材が入っていました。当日お昼のニュースで流れたそうです。烏丸半島の船着き場ではオナガミジンコやミジンコワムシなど夏らしいプランクトンが多くみられました。



採集の様子



観察会の様子



9月15日に観察したプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(15) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:渡邊 俊洋、桑原 康一

【活動報告】

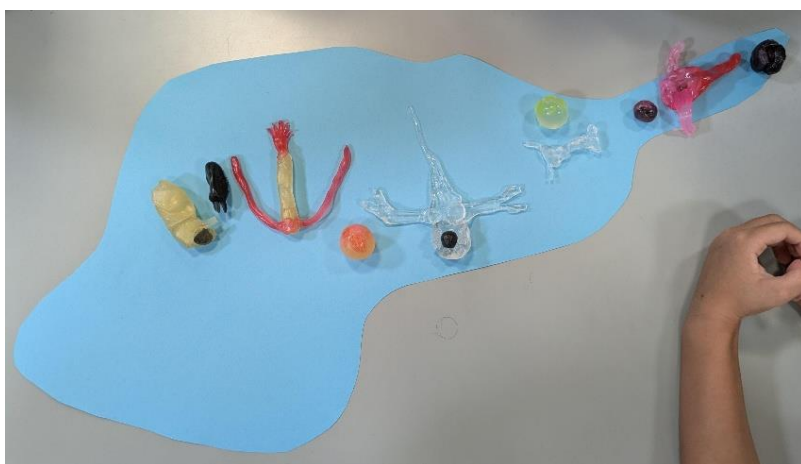
9月14日(土) プランクトンを見よう!

参加者 15名

琵琶湖で採集したプランクトンを顕微鏡で観察し、観察したプランクトン一つ選び模型を作るプログラムです。

プランクトンって何?という話と顕微鏡の使い方の話を聞いてから観察スタートしました。家族ごとに実体顕微鏡生物顕微鏡を一台ずつ使えるので、のびのびと観察することが出来ました。くるくるまわるボルボックスやぴよぴよ動くケンミジンコなどを「見てみて!」と親子で交代で顕微鏡を覗き込む良い時間になりました。

じっくり観察した後は、お気に入りのプランクトンを1つ選んで模型を作ります。おゆまると言うお湯で温めると粘土のように柔らかくなる素材を使いました。ボルボックスやケンミジンコ、ノロなどをカラフルな模型が出来ました。



(16) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

【活動報告】

■7月28日(土) 参加者:3名

カミツキガメの解剖、イシガメの解剖を行いました。

■8月10日(土) 参加者:5名

イタチの解剖、タヌキの解剖、カミツキガメの解剖を行いました。

■8月25日(日) 参加者:4名

カミツキガメの解剖、イタチの解剖、イシガメの解剖、ツキノワグマの骨のクリーニングを行いました。

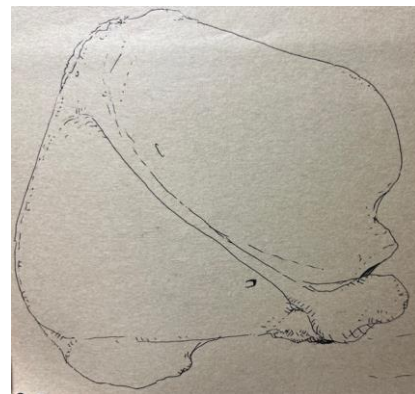
■9月7日(土) 参加者:2名

ツキノワグマの骨のクリーニング、アカミミガメの骨のクリーニングを行いました。

画像はこの日に行ったツキノワグマの肩甲骨のスケッチなのですが、肩甲骨も動物によって違いが見て取れる箇所な気がします。

このツキノワグマは、丸に近い四角形の様に感じましたし、ニホンジカの肩甲骨は細長い三角形のような感じがします。

このような違いに気が付けたときはその動物の生活や生き方の違いに関係があるのではないかと、妄想が膨らむとても楽しい瞬間です。



▲クリーニングを行ったクマの肩甲骨のスケッチです。

【活動予定】

10, 11月の活動予定日は現在未定ですが、

月に2, 3回の活動を予定しております。

また、11月16日(土)、17日(日)に開催予定のびわ博フェスにおいて、交流活動を行う予定です。



(17) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 30名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■8月4日(日) 午前 参加者:16名

活動内容:藍の葉っぱたたき染めと野菜スタンプ(琵琶湖博物館 生活実験工房)

毎年、草木染めをしています。今年度は藍の葉っぱそめを行いました。それと野菜の切り口に色を塗り、スタンプのようにして模様をつける野菜スタンプも実施しました。藍はメンバーが自宅で育ててくれたもので、とても貴重です。

トートバッグやポーチなど好きなものを選んで、自分オリジナルの作品を作りました。

藍の葉っぱ染めは、トートバッグの袋の中に段ボールや新聞紙などをはさんで、葉っぱを乗せ、その上にクリアファイルやラップを置いて、金槌や木槌などで、トントン叩いて色素を移していきます。初めてだと、加減が分からず、なかなか難しいです。何度かやったことのあるメンバーは、とても上手に色素を移していました。コツは葉脈だけが残るくらいまで、しっかり叩くことだと思いました。

野菜スタンプは、レンコンやオクラ、ピーマン、コーン、玉ねぎなどを使いました。子供のメンバーも楽しそうにスタンプをしていました。自然から生まれる野菜の形、なぜこんな形になっているのか、とても心を惹かれました。面白い作品が沢山できました。



【参加者の感想】

- ・藍の葉スタンプや野菜スタンプはレイアウト一つで色々楽しめました。
- ・藍の叩き染めは、布地に染み込んだ緑色が時間とともに変化していく様子が大変興味深かったです。
- ・みなさんとワイワイしながら模様を作っていく時間がとても楽しかったです。
- ・発色が自然の味わい深さがあり綺麗です。アイデア次第で無限にデザインできるので色んなものでチャレンジしたいです。
- ・藍の葉っぱの虫食い穴もたたき染めにするととても魅力的。今年だけの葉っぱ、今年だけの虫ちゃんが作った穴。世界でたった一つのアートですね。

■8月4日(日) 午後 参加者: 14名

活動内容: こんにゃく湿布と虫よけスプレー作り(琵琶湖博物館 生活実験工房)

こんにゃく湿布は、昨年度のびわ博フェスで実施しました。いつもお疲れ(?)のメンバーには、評判のよいのがこんにゃく湿布です。こんにゃくをぐつぐつ煮て、それを何枚かのタオルで包み、痛いところや冷えているところにびわの葉を乗せてから当てて、しばらく休めます。お家でも簡単にできます。今回は人数が多く、和室に全員が入れなかったのが、交代で行いました。待っている間に、精油(エッセンシャルオイル)で作る虫よけスプレーを作りました。利用した精油は、ユーカリレモン・レモングラス・シトロネラ・ペパーミント・ラベンダー・ゼラニウムです。本当はどの精油がどんな虫が嫌がるのか、そこまで実験できたら面白いのですが、今回は時間がなかったのが来年度の課題としたいと思います。



【参加者の感想】

(こんにゃく湿布)

- ・初体験でしたが、血液がグルグルめぐり、夏の暑さと遊び疲れがとれてスッキリしました。
- ・毎回驚くほど体が軽くなります。家族に試したいと思います。
- ・温かくなりリラックスして、気が付くと意識がなくなっていました(笑)。

(虫よけスプレー)

- ・スッキリしたさわやかな香りでした。すぐ使います。
- ・アロマの香りに包まれて癒されながら虫よけができるのでお気に入りです。
- ・清涼感たっぷりの癒しのスプレーです。

【活動予定】

- ・9月29日(日) 10:00~13:00 生水の郷「針江」見学ツアー、湖岸で流木探し



(18) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 40名】

グループ担当職員: 今田 舜介

【活動報告】

■7月7日(日)10~22時 参加者:10名 高島市マキノ町→高島市朽木

午前中はマキノ町でチョウや甲虫を探しました。ブナ林ではフジミドリシジミが、また山道ではクロカタビロオサムシが見つかりました。午後三時ごろ朽木へ移動し、ライトトラップを行いました。たくさんの虫が飛来しましたが、圧倒的に多かったのはカメムシ類で、おそらく皆さん帰りの車の中は大変だったのではないのでしょうか。



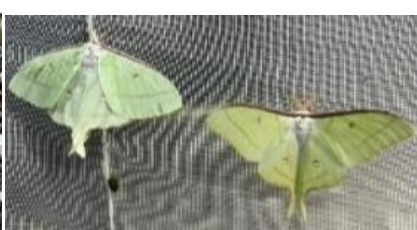
■7月28日(日) 10時30分~12時 参加者:19名 琵琶湖博物館

毎年恒例の生活実験工房行事「田んぼ体験 昆虫採集」が行われました。熱中症対策として屋外での昆虫採集はできる限り短時間で終わらせ、ほとんどの時間を採集した虫の同定会にあてられました。皆さん暑い中ご協力ありがとうございました。



■8月10日(土) 17時30分~22時 参加者:11名 大津市北比良

大津市北比良でライトトラップを実施しました。場所はいつもの所とは異なり、少し手前の空き地でライトを設置したので、虫が飛来して来てくれるか心配でしたが、予想以上の成果があり、大型のヤマムガやスズメガの仲間が数多く飛来し、カミキリやコガネムシなども多数飛来しました。



また、「虫架け通信」70号、71号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

今年度も1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■7月27日(土)、8月24日(土)及び9月14日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)延べ15名 (博物館職員)林

内容:屋外展示のPR策の検討として「森の探検マップ」子供版及び「おすすめの木」の検討をした。「森の探検マップ」に関しては森の動植物の様子が予想に反し変わっていくので記載内容について変更するなど時間がかかっているが9月14日の現場確認

を踏まえ最終の修正を行う。さらに現場で除草や植物名の表示およびC展示室での準備を行い使用を開始する予定である。「おすめの木」は記載内容の検討及び写真撮影などを継続する。

【今後の予定】

■9月28日(土)10:00~12:00 集合場所:研究交流室 内容:屋外展示のPR策の検討

■10月12日(土)、10月26日(土) 内容:未定

以上



(20) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

現在、琵琶湖梁山泊は活動を完全に停止しています。元会員や卒業生たちがときどき琵琶湖博物館に遊びに来て、現在進めている研究の話などを聞かせてくれるだけです。

【活動予定】

琵琶湖梁山泊の活動報告が掲載されるのは、このニューズレターが最後になるかも知れません。

琵琶湖梁山泊は琵琶湖博物館第二次中長期計画(2014~2018年)に沿って設立されたグループで、2018年~2019年頃の最盛期には2桁の会員数を誇り、また何人かの会員が華々しい研究成果をあげていました。しかし、コロナ禍以降はほとんど活動ができず、当時中高生だった会員はついに全員卒業してしまいました。

しかしながら、琵琶湖梁山泊に対する社会的要請は今も失われていません。昨今、いくつかの高校にGS(グローバル・サイエンス)コースが設置されるなどして、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を拾い上げてサポートすることが求められています。しかし研究が「進みすぎた」中高生たちに適切な研究指導ができる学校教員は今も少なく、またそのような中高生たちが横のつながりを確保できない状況はいっそう顕著になっています。中学生対象ならばこうした子どもたちをサポートする「びわ湖トラスト」の「ジュニアドクター育成塾」がありますが、高校生の、しかも部活などのグループ研究をサポートする仕組みは他にありません。

先日のはしかけ登録講座で中高生の新入会員が現れなければ、琵琶湖梁山泊はいったんその旗を畳みます。しかしもし、参加希望者が現れれば、いつでも活動を再開します。集え梁山泊へ！

(大塚 泰介)



(21) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:西川 真里奈

【活動報告・活動予定】

■ びわ博フェスの準備を進めていますが、それ以外には特に活動は進めていません。



(22) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 令和6年7月11日(木)9:00~12:00 小雨 参加者 6名

- 1 活動先:東近江市北坂町一帯
- 2 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は、平成の市町村合併より、東近江市となった北坂町を調査する。北坂町は南側が百済寺町・百済寺本町に隣接する小集落である。同集落は町内農家が出資設立した農事組合法人で地域協力体制の農業に取り組んでいる動きなど、集落を散策しながら現在の北坂町を調査・確認する。

- 1) 北坂町集落の変遷について。

北坂町は旧愛東町の最北部に位置し、南は百済寺町、百済寺本町、北と西は旧 湖東町(現東近江市)に接している。江戸時代は彦根藩領で、年度不詳の「北坂村 検地帳(清水重右衛門家文書)」によれば村石高は 359.979 石とある。郷帳で

は、ほかの百済寺郷諸村と一括され、百済寺村となっている。明治 16 年(1883 年)に大萩村・上山本村・下山本村・北古屋村と合併し、百済寺村となる。明治 22 年からは角井村に属した。

2) 北坂町の人口推移について。

・昭和 56 年 1 月現在では 63 世帯 241 人で、農家が 39 戸あったがすべて兼業農家であった。平成 12 年(2000 年)の国勢調査では 87 世帯 561 人で 15 歳以上の就業者 171 人のうち農業従事者は 29 人で、製造業 52 人、サービス業 49 人と多数を占めている。

・65 歳以上の人口は 305 人に達しており、旧愛東町域で最も高齢化が進んでいる地区である。

3) 村の鎮守としての坂本神社

北坂町の集落から少し東に離れて鎮座し、すぐ西を名神高速が走るようになって、集落から神社は見えなくなっている。寿永 2 年(1184 年)木曾義仲が平家追討のために蒲生野に滞在中、百済寺から兵糧米を受けた好意に応え、当社を造営したと伝わる。康安年間(1361～)南北朝時代に佐々木氏頼が修理を加え寄進したが、天正元年(1573 年)信長の兵火に遭い、同 3 年に復興している。古くは大行事神社と称していたが坂本神社と改め、昭和 21 年(1946 年)日吉神社から分祀した。本殿屋根上の家紋は 百済寺本町にある日吉神社と同じ三頭巴紋である。(三頭巴紋は社紋として一般的であり、防火祈願・瓦紋としても多用されている。)神社の森は桧と杉の大木が茂っていて、桧を中心に表皮がきれいに剥ぎ取られた大木が目立ち、どこかで檜皮葺きの屋根工事に保管されているようである。本殿に沿って左右巨木の根元に異なる小さな祠が祀られている。各集落では、梅雨明け頃に祭礼道具等の虫干しが行われる。7 月 4 日の祇園さんの虫干しという行事が行われる。坂本神社背後の山中にある祇園さんと呼ばれる小祠から神霊を本社にお迎えして御幣を新調するので、京都祇園の八坂神社の祭礼に合わせて行うという。

4) 村の灌漑用水としての大行事溜めと北坂本城及び農業組合

坂本神社の脇道から灌漑用水として管理されている大行寺溜めの土手が望める所まで歩を進め小雨に煙る北坂本城跡も見上げることができた。大行寺溜め(大行事溜) 小字「祇園尾」管理者・所有者は東近江市北坂町 堤高 5.5m 堤頂長 175m 貯水量 18 千 m³と表示されていた。灌漑用水は小字「西海道」と周辺の小字「里の上・横田・屋敷出・高橋・堺・久保野」の田は音の井で灌漑されていた。そのほか、灌漑用水は一の井・中の井や音井池・新堤 池(祇園谷に所在)、などの溜池に依存していた。十分すぎる溜池数である。集落内はたまに車が往き来するだけで、今回雨の中の屋下がりであったが、現地に住民の方とは全く出会うことがなかった。看板もなく地元で根付くやまよし醤油店、現在は原料汁を仕入れて独自のブレンド品として地元中心に販売。またこの地域の「農事組合法人」は、北坂町内の各農家が出資して設立。会社組織で町内の農地全域を管理し各農家はこの法人から米を購入する形をとっている。このような地域内の協力体制があるので、休耕田や耕作放棄地が少ないのであろう。灌漑用水は地域の文化遺産であり、現在でも健在である。



□坂本神社本殿



□表皮剥ぎ取られたヒノキ



□大行事溜めと導水路



□大行事溜め越の北坂本城址



□北坂町の耕作地風景

■令和6年8月8日(木)9:00-12:00 晴 参加者 6名

1 活動先: 東近江市上山町・百済寺甲町一帯。

2 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は百済寺本町から百済寺へ通ずる参道と日吉神社に接している上山町の集落を現地訪問し、昔から集落の用水溜として使われている山口溜の現状を見学する。加えて上山町から

県道 229 号線で角井峠を越えて約 50 年前に土砂災害で全村集団移転された百済寺甲町(旧大萩村)を訪問して現状調査・確認をする。

1) 上山町集落の変遷について。

上山町は旧愛東町の北東部に位置し、北と東は百済寺町、南は市ヶ原町、西は百済寺本町に接している。江戸時代は上山本村として彦根藩領であった。「淡海木間攢(おうみこまさえ)」によれば村高は 228.368 石である。郷帳では、ほかの百済寺諸郷村と一括され、百済寺村となっている。明治 16 年(1883 年)には大萩村・下山本村・北古屋村・北坂本村と合併し、百済寺村となった。明治 22 年からは角井村に属した。百済寺郷 ➡ 近世 上山本村 ➡ 近現代 百済寺乙 ➡ 現代 上山町

2) 上山町の人口推移について。

昭和 5 年 1 月 1 日現在では、46 世帯 224 人で、農家数は 38 軒であったが、平成 12 年(2000 年)の国勢調査では 60 世帯 229 人で、15 歳以上の就業者のうち農業従業者は 20 人で、製造業 44 人やサービス業 28 人が多数を占めている。当町は、人口微減であるが、世帯数は増加しているという特色がある。

3) 水利・灌漑用水に関して。

用水は加須川・山口溜などから引水されていたが不足し、渇水という事態も起こった。また、この頃に加須川の川底が低下し、灌漑用水の確保が一層難しくなり、その影響が井戸水にも及ぶ時期があったとの記載もある。現存する溜池の詳細は、①山口溜 :堤頂長 154m 総貯水量 2200m² ②ハタ溜 堤頂長 75m 総貯水量 700m²

4) 地域事情として

山林のうち、市ヶ原に隣接する 5 町は開墾可能な場所とされたが、やはり用水確保に難があり断念した歴史がある。一方、耕作地で角井西瓜の生産が行われ、昭和 4 年(1929 年)の段階で 33 人が栽培に携わり、作付面積は 4 町 7 畝 14 歩となり、現在では地域の特産物となっている。

5) 上山町の集落を巡る。

百済寺本町のバス停から百済寺山門に続く参道の中程 日吉神社鳥居方向への道に入ると直ぐに上山町の集落である。左右に集落を見ながら少し進むと薬師堂前の四つ辻に出る。右手方向が段丘の等高線に沿って上中野町・下中野町・愛東マーガレットステーションに通じている。左手方向が集落を越えて百済寺山門前の三叉路につながっている。薬師堂には庚申塔の石碑が祀られている。四つ辻右手には津島詣りの石塔も置かれている。上山町の集落は立派な家並の民家で、天候の良い昼間時間であったが人の往来はほとんどなく、静まりかえっている。四つ辻を直進してなだらかな登坂を進むのが県道 229 号線で、すぐ左手に山口溜の石標に出会う。きれいに刈り込まれた堤に囲まれた長方形の溜である。堤から見下ろすと上山町の集落と南西方向の段丘に当集落の整備された水田が広がっている。

6) 全村移転された百済寺甲町(旧大萩村)を巡る。

今回は、山口溜への道の県道 229 号線をそのまま直進し、急カーブで狭い坂道を経て 百済寺甲町を目指した。前々回報告の旧大萩村を訪れるためである。杉の植林地帯を走り、角井峠を越えとなだらかな下り坂となり、ほどなく左手に 2 か所、平屋の建物が並んでいる。一か所は平飼いの鶏舎で大萩茗荷村身障者の方の生業との事。他の一か所は「ありがとうボランティアグループ(多賀町)」の方が間伐材を利活用されている木材関係の作業小屋が存在している。一段と狭くなって対向車の離合が難しい県道を過ぎると、旧集落の入り口で、右手に大萩茗荷村の看板が現れる。その奥に生活感のある住宅が一棟あって、ここが現在、身障者が共同住宅として住まわれている建屋である。別に旧学校グランド跡地の奥にログハウスがあり、この 2 棟が生活されている家屋と見受けられる。石垣で四角に仕切られた旧住宅の敷地は、数日前に草刈りされたばかりで整然と美しく管理されている。近年までは大萩町に移転された方達が、出掛けてきて草刈り作業をしていたが、現在は大萩茗荷村に住まわれている方が草刈りされているようだ。この土地は、移転する時に旧大萩集落の所有権を全て滋賀県に移して、その代替地として新しい大萩団地に移転したのではあるが、望郷の念が捨てがたいのであろう。集落に至る道中の山林は、東近江市永源寺森林組合(東近江市)と、びわこ東部森林組合(多賀町)の 2 業者で管理されていると表記があった。大萩村当時の生業は水田もあったが林業が中心で多くの家で炭焼きをされていた。炭焼き窯が 50 ヶ所ほどあったという。燃料の源は当時、木炭であった時代での生業であったのであろう。のちの油化等の燃料変化により木炭生産の需要は激減する。住宅敷地の中央付近に「大萩分校の跡」を示す石碑が残り、その裏面には「創立 愛東中学校 昭和 23 年 10 月、愛東北小学校 昭和 30 年 4 月、大萩学校 明治 9 年 8 月。廃校 昭和 50 年 4 月」と記されていた。道路を隔てた側には平地が広がっていて当時の運動場跡と思われるが、50 年の時が経て灌木が生い茂っている。中央付近の道路脇にある「大萩集落之碑」には、「永禄元年(1558 年)頃の記録によれば林業を主な生業としてきたが、全戸焼失からの再起、大正年間の電灯導入、昭和時代の舗装道路開通、定期バス運行の歴史があったが、昭和 47 年 9 月 16 日台風による山崩れ惨禍に遭遇し、昭和 50 年 4 月上岸本町地先に全村集団移転した」と記されている。観音像の脇に流れ出す手水、奥にある神社の手水は、いずれも付近の谷水を集めているものである。当時から飲み水は谷水に頼っており、井戸のある家は数軒であった。との記録あり。集落を流れる川は犬上川の上流にあたる。来年 2025 年が集団移転 50 周年となり、記念事業が予定されているとの事。集団移転が最終的にうまくできたのは、滋賀県はじめ行政当局と当時の集落役員の指導力、住民の協力体制がうまくいったこと。全国的にも貴重な集団移転

の成功例だと言われている。50 年を経て、移転作業に直接携われた方達の年代が徐々に少なくなる中、地域文化の継承の大切さを強く感じた。たった 50 年ほど前の話であるが「兵たちの夢の後」まさにその感が大である。



□上山町集落



□集落からの薬師堂



□津島詣で道標



□山口溜全貌



□山口溜から見た上山町全貌



□大萩集落之碑



□冷たい谷水を集めて



□分校前の旧グラウンドか？



□整備されている区画

- 参考資料 1) 東近江市発行. 東近江市史愛東の歴史. 第一巻. 資料編
 2) 東近江市発行. 東近江市史愛東の歴史. 第三巻. 本文編
 3) 東近江市発行. 東近江市史愛東の歴史. 第一巻. 資料編
 4) 東近江市発行. 東近江市史愛東の歴史. 第三巻. 本文編
 5) 杉田薫作成資料. 東近江市上山町 (旧上山本村) の調査書

以上

(執筆者 小篠)



(23) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16 名】

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

* 2024 年 7 月 19 日(金) 9時30分～11 時 30 分

天候: 晴れ 気温: 25°C (9 時 30 分) 今日の琵琶湖: 水位 -5 cm 参加者: 4名

観察状況

- * 梅雨明けか? 曇ってはいるがムンムンして暑い。
- * 浜は小さな波がある。水位が低いのか浜が広がったように思える。
- * ハマゴウが広がり花もきれいな一方、ハマヒルガオは枯れてきた。
- * 保護区の中は風が通り日陰は涼しく、蟬の声も聞こえた作業日。
- * 指定管理者の湖東湖北ゆうゆうパートナーズさんが保護区への立ち入り禁止の注意書きを駐車側のロープに設置された。



定点観測



今日の琵琶湖 水位-5cm



ハマエンドウ



ハマゴウ

活動内容

- ・保護区内除草(カタバミ・カヤツリグサ・ムシトリナデシコ・オオフトバムグラ等)
- ・駐車場側の草刈り機による除草 (保護区外)
- ・アメリカネナシカズラの除去(2カ所・活動区内の浜のハマゴウの中)

海浜植物

ハマエンドウ : 夏枯れはしているが松の周辺は生き生きしている。所々新しい株も見られる。

ハマゴウ : 浜いっぱい広がって花も満開できれい。

ハマヒルガオ : 花もなく枯れてきたが、葉はついている。



ハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ



ハマゴウに絡む
アメリカネナシカズラ

*2024 年7月 23 日(火) 9時00分～12 時00 分

天候:晴れ 気温:29℃(9 時00 分) 今日の琵琶湖:水位-15 cm

参加者:1名 (今日は地元の宇野さんと女性1名の参加をいただいた)

定点観測



活動状況:

- * 本日はNHKの取材が9:30～約30分あった。
- * 日差しが強く暑かった。
- * アメリカネナシカズラは未調査
- * ハマゴウは満開で、実が出来ている。

活動内容

- ・NHK取材対応(ハマゴウ群生地で草取り風景撮影、インタビュー:地元の宇野さん、放送日は未定。後日連絡あり)
- ・松林南側及びツルニチニチソウの草刈り

海浜植物

ハマエンドウ : 新芽が大きくなってきた。

ハマゴウ : ほぼ満開で実が出来ている。黒く大きい蜂が蜜を吸いに飛び回っていた。(タイワンタケクマバチ)

ハマヒルガオ : 種ができています。花は見つからない。葉だけ。



ハマゴウの花に台湾タケクマバチ



ハマエンドウ

* 2024 年 8 月 16 日(金) 9時30分～11 時 30 分

天候:くもり 気温: 29°C(9 時 30 分) 今日の琵琶湖:水位-38 cm 参加者:5名

観察状況

- * 台風の影響か？北西の風が強く、琵琶湖は、白波が立ち波も荒い。
- * 水位が低い為か、浜が広がったように思える。
- * 日陰は風が涼しく、蝉の声大きい。
- * 最近、雨が降らないので全体的に水不足でカサカサしている。
- * 波の音と蝉の声を聴きながらの作業日。
- * 日陰を作っている中央の松が枯れ始めた。(小さな松があちこちに育っている)

定点観測



今日の琵琶湖の水位-38 cm



ハマエンドウ



ハマゴウ

活動内容

- ① 保護区内除草(前回の除草と枯れによりあまりない。)
- ② アメリカネナシカズラの除去(1 カ所・活動区内の浜のハマゴウの中)
- ③ 浜の除草(メドハギ・チガヤ・メリケンムグラ等)

海浜植物

ハマエンドウ:すっかり夏枯れしているが、松の下やセンダンの木の下は緑もきれい。水不足の為か全体に元気がない。

ハマゴウ:花も少なくなり種ができています。黒くなった種もある。

ハマヒルガオ:所々、葉が確認できるが花はない。



夏枯れしたハマエンドウ



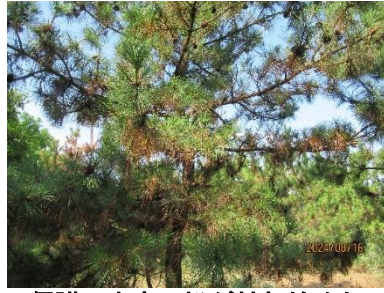
種が茶黒になってきたハマゴウ



アメリカネナシカズラ



レンゲの若葉が育っている



保護区中央の松が枯れ始めた

* 2024 年9月3日(火) 9時30分～11 時 30 分

天候:くもり 気温:25°C(9 時 30 分) 今日の琵琶湖:水位-21 cm 参加者:6名

観察状況

- * 少し、秋空の気配が感じられる。北西の風がふき、琵琶湖は、少し白波が立っている。
- * 雨の後のせいかもしれないが、あちこちに茂り始めた。
- * ハマゴウが琵琶湖に向かって伸びている。
- * 蒸し暑いが琵琶湖からの涼風が心地よくさせてくれる作業日。

定点観測



今日の琵琶湖水位-21cm



ハマエンドウ



ハマゴウ

活動内容

- ① 駐車場側プランター設置場所に新しくレンゲ畑を耕作(1m×3m)
- ② 保護区内除草(カヤツリグサ・オオフタバムグラ・ツルニチニチソウ等)
- ③ アメリカネナシカズラの除去(1カ所・活動区内の浜のハマゴウの中)

海浜植物

ハマエンドウ:すっかり夏枯れしているが、ハマゴウの付近や松の下等に新芽ができています。

ハマゴウ:花は数本しか見当たらない。種ができて茶色くなってきた。浜に伸びた枝には花がついている。

ハマヒルガオ:あちこちに新しい葉(茎)ができています。雨が降り、涼しくなったから？



新芽が出ているハマエンドウ



琵琶湖に向かって伸びるハマゴウ



ハマヒルガオが再度出てきた浜



既成植物に絡みつくアメリカネナシカズラ



ハマゴウの葉を食べる虫(名前不詳)

以上

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(10月～12月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(2)	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、稲刈り・ハサ掛け作業を体験して頂きます。	2024 年 10 月 13 日	日	10 時 30 分～ 12 時 30 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	長靴・着替え軍手等をご用意下さい。暑さ対策をお願いします。 ※雨天中止 ※要事前申込
ちこあそ・10 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆつくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024 年 10 月 16 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
季節の植物でアロマ ウォーターを作ろう！	季節の植物を使って、蒸留器でハーブウォーターを抽出します。抽出液を使ってルームスプレー等を作ってみましょう。	2024 年 11 月 12 日	火	11 時 00 分～ 12 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※定員 5 名(先着) ※当日受付(受付時間 10:30～)直接、生活実験工房にご来場ください。
ちこあそ・11 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆつくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024 年 11 月 20 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。

【わくわく探検隊】 岩石標本箱をつくろう！	いろいろな石を観察して名前をつけて自分だけの岩石標本箱をつくろう！	2024 年 12 月 14 日	土	13 時 30 分～ 15 時 00 分	琵琶湖 博物館 実 習 室 1、	※先着 ※雨天決行
ちこあそ・12 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024 年 12 月 18 日	水	10 時 00 分～ 14 時 00 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
【田んぼ体験】 生活実験工房 田んぼ体験 しめ縄づくり	生活実験工房の施設を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、しめ縄づくり作業を体験して頂きます。	2024 年 12 月 22 日	日	10 時 30 分～ 12 時 30 分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	多少汚れてもよい服装をご準備下さい。 ※要事前申込

4. 生活実験工房からのお知らせ

9 月 8 日に早生品種の稲刈り・ハサ掛けを実施しました。
当日は、真夏日でしたが、お陰様で、無事に行事を終えることができました。

参加者の皆様には、楽しみながら稲刈り・ハサ掛けをしていただくことができたようで、本当に良かったです。

今後の農作業のイベントは以下のとおりです。

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付 10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

10 月 13 日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
12 月 22 日(日) しめ縄づくり
2 月 9 日(日) わら細工



▲稲刈りの様子



▲ハサ掛けの様子

担当:環境学習・交流係

5. その他の事項

.....●

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。